

# RADIAS

SYNTHESIZER / VOCODER

RADIAS システム・バージョン 2.0  
の追加機能

**MMT**

**KORG**

RADIAS システム・バージョン 2.0 では、以下の機能が追加になりました。製品に同梱の「RADIAS 取扱説明書」とあわせてお読みください。

## バーチャル・パッチ

RADIAS システム・バージョン 2.0 では、バーチャル・パッチのモジュレーション先のパラメーターに、以下のものが追加されました。より多彩な音作りが可能になります。

☞ p. 92 P11 PATCH ページ “Dest (Destination)”

### Portamnto

P05-1: PITCH ページの “Portamnto” (ポルタメント・タイム) にモジュレーションがかかります。

### OSC1Ctrl2

P06-1: OSC/MIXER – OSC1 タブ・ページの “Control2” にモジュレーションがかかります。

### Filt1EG1, Filt1KTrk

P07-1: FILTER – FILTER1 タブ・ページの “EG1 Int”、“KeyTrack” にモジュレーションがかかります。

### Filt2Reso, Filt2EG1, Filt2KTrk

P07-2: FILTER – FILTER2 タブ・ページの “Resonance”、“EG1 Int”、“KeyTrack” にモジュレーションがかかります。

### EG1Attack, EG1Decay, EG1Sustin, EG1Releas

P09-1: EG – EG1 タブ・ページの “Attack”、“Decay”、“Sustain”、“Release” にモジュレーションがかかります。

### EG2Attack, EG2Decay, EG2Sustin, EG2Releas

P09-2: EG – EG2 タブ・ページの “Attack”、“Decay”、“Sustain”、“Release” にモジュレーションがかかります。

### EG3Attack, EG3Decay, EG3Sustin, EG3Releas

P09-3: EG – EG3 タブ・ページの “Attack”、“Decay”、“Sustain”、“Release” にモジュレーションがかかります。

### Patch1Int, Patch2Int, Patch3Int, Patch4Int,

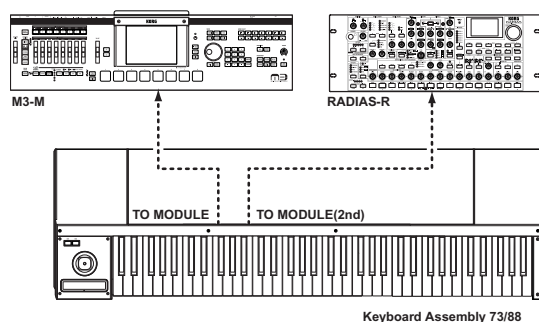
### Patch5Int, Patch6Int

P11: PATCH-P1 ~ PATCH-P6 タブ・ページの “Intensity” にモジュレーションがかかります。

## キーボード・アセンブリ 61key/73key/88key との接続

RADIAS システム・バージョン 2.0 では、ミュージック・ワークステーション/サンプラー M3 で使用されているキーボード・アセンブリ 61key/73key/88key と接続して、演奏することが可能になります。

- ▲ キーボード・アセンブリ 61key では、鍵盤のアフター・タッチとリボン・コントローラーは使用できません。
- ▲ RADIAS-R をキーボード・アセンブリ 73key/88key と接続する場合は、M3-M を TO MODULE 端子に、RADIAS-R を TO MODULE(2nd) 端子に接続してください(下図参照)。RADIAS-R を TO MODULE 端子に接続すると、鍵盤のアフター・タッチとリボン・コントローラーが無効になり、TO MODULE(2nd) 端子に接続した M3-M がアフター・タッチによって誤動作を起こす可能性があります。RADIAS-R を単独でキーボード・アセンブリ 73key/88key と接続する場合は、TO MODULE 端子に接続してください(TO MODULE(2nd) 端子は使用しないでください)。この場合も鍵盤のアフター・タッチとリボン・コントローラーは使用できません。



## ジョイスティック

### X 方向

RADIAS-KB の PitchBend ホイールと同様に動作します。ジョイスティックを X 方向(左右)に操作すると、プログラム・エディット・モード P05: PITCH ページの “BendRange” の設定にしたがってピッチベンド効果がかかり、TIMBRE SELECT で選択しているティンバーの MIDI チャンネルでピッチベンド・チェンジを送信します。また、ピッチベンド・チェンジを受信すると、ジョイスティック操作時と同じ効果がかけられます。

**note** ピッチベンド効果をかけるときは、プログラム・エディット・モード P03-4: TIMBRE-MIDI タブ・ページの “PBnd” を ○ (Enable) にします。ティンバーごとに設定します。

**note** ピッチベンド・チェンジを送受信するときは、グローバル・モード P06: MIDI FILTER ページの “PitchBend” を ○ (Enable) にします。

**note** ジョイスティック X 方向（左右）を、他のパラメーターへのモジュレーション・ソースとして使用するとき、コントロールするパラメーターに応じて、以下のパラメーターを P.Bend に設定します。

- バーチャル・パッチ P11 PATCH の “Source” (RADIAS 取扱説明書 43p.91)
- ボコーダー P07: FILTER の “FcModSrc” (RADIAS 取扱説明書 43p.105)
- エフェクト・コントロール・ソース (St. Filter の “Ctrl Src” など、RADIAS 取扱説明書 43p.125)

この場合、mm=64, bb=00 を 0 (センター値) として、- 127 ~ + 127 の範囲でコントロールします (ティンバーの MIDI チャンネルで受信します)。

## + Y 方向

RADIAS-KB の Modulation ホイールと同様に動作します。ジョイスティックを +Y 方向に操作すると、プログラム・エディット・モード P05: PITCH ページの “VibratInt” の設定にしたがって LFO2 によるビブラート効果がかかり、TIMBRE SELECT で選択しているティンバーの MIDI チャンネルでモジュレーション・デプス (CC#01) を送信します。また、CC#01 を受信すると、ジョイスティック操作時と同じ効果がかかります。

**note** ジョイスティック + Y 方向によるビブラート効果かけるときは、プログラム・エディット・モード P03-5: TIMBRE CC-A タブ・ページの “Cntl” を ○ (Enable) にします。ティンバーごとに設定します。

**note** MIDI コントロール・チェンジ・メッセージを送受信するときは、グローバル・モード P06: MIDI FILTER ページの “Ctrl Chg” を ○ (Enable) にします。

**note** ジョイスティック + Y 方向を、他のパラメーターへのモジュレーション・ソースとして使用するとき、コントロールするパラメーターに応じて、以下のパラメーターを M.Wheel に設定します。

- バーチャル・パッチ P11 PATCH の “Source” (RADIAS 取扱説明書 43p.91)
- ボコーダー P07: FILTER の “FcModSrc” (RADIAS 取扱説明書 43p.105)
- エフェクトのコントロール・ソース (St. Filter の “Ctrl Src” など、RADIAS 取扱説明書 43p.125)

## -Y 方向

グローバル・モード P04: MIDI ページの “MIDI1” ~ “MIDI5” のいずれかを #002 にすると、ジョイスティック Y 方向を以下のソースとして使用することができます。

- バーチャル・パッチのモジュレーション・ソース (RADIAS 取扱説明書 43p.91)
- ボコーダーのフィルター・モジュレーション・ソース (RADIAS 取扱説明書 43p.105)
- エフェクトのコントロール・ソース (St. Filter の “Ctrl Src” など、RADIAS 取扱説明書 43p.125)

**note** 工場出荷時、“MIDI2” には #002 が設定されています。

ジョイスティックを -Y 方向へ操作すると、選択しているティンバーの MIDI チャンネルでコントロール・チェンジ CC#02 を送信します。また、CC#02 を受信すると、ジョイスティック操作時と同じ効果がかかります。

**note** ジョイスティック Y 方向による効果をかけるときは、プログラム・エディット・モード P03-5: TIMBRE CC-A タブ・ページの “Cntl” を ○ (Enable) にします。ティンバーごとに設定します。

**note** MIDI コントロール・チェンジ・メッセージを送受信するときは、グローバル・モード P06: MIDI FILTER ページの “Ctrl Chg” を ○ (Enable) にします。

## SW1/SW2

グローバル・モード P04: MIDI ページの “MIDI1” ~ “MIDI5” のいずれかを #080 (SW1) または #081 (SW2) にすると、SW1 または SW2 を以下のソースとして使用することができます。

- バーチャル・パッチのモジュレーション・ソース (RADIAS 取扱説明書 43p.91)
- ボコーダーのフィルター・モジュレーション・ソース (RADIAS 取扱説明書 43p.105)
- エフェクトのコントロール・ソース (St. Filter の “Ctrl Src” など、RADIAS 取扱説明書 43p.125)

**note** 工場出荷時、“MIDI3” には #080、“MIDI4” には #081 が設定されています。

RADIAS-R では、SW1/SW2 はトグル動作のみです。スイッチを押すたびにオン/オフが切り替わります。プログラムを切り替えると、スイッチはオフにリセットされます。


スイッチの点灯/消灯の状態は、接続する端子によって以下のように異なります。

### TO MODULE 端子へ接続した場合

キーボード・アセンブリ 61key または 73key/88key の TO MODULE 端子へ接続したときは、スイッチの状態と RADIAS-R の動作が一致します。オンでスイッチが点灯し、オフで消灯します。

### TO MODULE(2nd) 端子へ接続した場合

キーボード・アセンブリ 73key/88key では、スイッチの状態は TO MODULE 端子に接続したモジュールの設定を反映しますが、TO MODULE(2nd) 端子に接続したモジュールの設定には反映しません。TO MODULE(2nd) 端子に接続したモジュールを操作するときは、スイッチの点灯/消灯には注意が必要です。TO MODULE 端子に接続した M3-M のプログラム等の SW1/SW2 の設定を Toggle、Off でライトしたときに、スイッチの状態が TO MODULE(2nd) 端子に接続した RADIAS-R の動作と一致します。

 スwitchのオン/オフの状態は、RADIAS-R のプログラムには保存できません。

スイッチを操作すると、TIMBRE SELECT で選択しているティンバーの MIDI チャンネルでコントロール・チェンジ CC#80 (SW1) または CC#81 (SW2) を送信します。スイッチ・オンで 127、スイッチ・オフで 0 を送信します。また、CC#80 (SW1) または CC#81 (SW2) を受信すると、スイッチのオン/オフが切り替わります。64 以上を受信するとオン、63 以下を受信するとオフになります。

**note** SW1/SW2 による効果をかけるときは、プログラム・エディット・モード P03-5: TIMBRE CC-A タブ・ページの “Cntl” を ○ (Enable) にします。ティンバーごとに設定します。

**note** コントロール・チェンジ・メッセージを送受信するときは、グローバル・モード P06: MIDI FILTER ページの“Ctrl Chg”を○ (Enable) にします。

## 鍵盤のアフター・タッチ

キーボード・アセンブリ 73key/88keyの TO MODULE 端子に M3-M、TO MODULE(2nd) 端子に RADIAS-R を接続したときのみ、鍵盤のアフター・タッチが有効になります。

グローバル・モード P04: MIDI ページの“MIDI1”～“MIDI5”のいずれかを A.Touch にすると、鍵盤のアフター・タッチを以下のソースとして使用することができます。

- バーチャル・パッチのモジュレーション・ソース (RADIAS 取扱説明書 p.91)
- ボコーダーのフィルター・モジュレーション・ソース (RADIAS 取扱説明書 p.105)
- エフェクトのコントロール・ソース (St. Filter の“Ctrl Src” など、RADIAS 取扱説明書 p.125)

**note** 工場出荷時、“MIDI5”には A.Touch が設定されています。

鍵盤でアフター・タッチをかけると、TIMBRE SELECT で選択しているティンバーの MIDI チャンネルでチャンネル・アフター・タッチを送信します。また、チャンネル・アフター・タッチを受信すると、鍵盤操作時と同じ効果がかかります。

**note** アフター・タッチの効果をかけるときは、プログラム・エディット・モード P03-4: TIMBRE-MIDI タブ・ページの“AT”を○ (Enable) にします。ティンバーごとに設定します。

**note** アフター・タッチを送受信するときはグローバル・モード P06: MIDI FILTER ページの“Ctrl Chg”を○ (Enable) にします。

**!** RADIAS-R を TO MODULE 端子に接続すると、鍵盤のアフター・タッチは無効になります。また、RADIAS-R を TO MODULE 端子、TO MODULE(2nd) 端子に RADIAS-R または M3-M を接続すると、鍵盤のアフター・タッチが無効になるだけでなく、TO MODULE(2nd) 端子に接続した RADIAS-R または M3-M がアフター・タッチによって誤動作を起こす可能性があります。このような接続をした場合は、TO MODULE(2nd) 端子に接続した RADIAS-R または M3-M のアフター・タッチの受信を無効にしてください (プログラム・エディット・モード P03-4: TIMBRE-MIDI タブ・ページの“AT”を×に設定)。

**!** RADIAS-R では、キーボード・アセンブリ 73key/88key のアフター・タッチの感度は調整できません。

## リボン・コントローラー

キーボード・アセンブリ 73key/88key の TO MODULE 端子に M3-M、TO MODULE(2nd) 端子に RADIAS-R を接続したときのみ、リボン・コントローラーが有効になります。

グローバル・モード P04: MIDI ページの“MIDI1”～“MIDI5”のいずれかを #016 ± にすると、リボン・コントローラーを以下のソースとして使用することができます。

- バーチャル・パッチのモジュレーション・ソース (RADIAS 取扱説明書 p.91)
- ボコーダーのフィルター・モジュレーション・ソース (RADIAS 取扱説明書 p.105)
- エフェクトのコントロール・ソース (St. Filter の“Ctrl Src” など、RADIAS 取扱説明書 p.125)

**note** 工場出荷時、“MIDI1”には #016 が設定されています。

**!** “MIDI1”が #016 に設定されていると、リボン・コントローラーから手を離しても、効果が 0 にならない場合があります。リボン・コントローラーから手を離れたときに効果が 0 になるような操作をしたいときは、“MIDI1”を #016 ± に設定してください。

リボン・コントローラーを操作すると、TIMBRE SELECT で選択しているティンバーの MIDI チャンネルでコントロール・チェンジ CC#16 を送信します。また、CC#16 を受信すると、リボン・コントローラー操作時と同じ効果がかかります。

**note** リボン・コントローラーによる効果をかけるときは、プログラム・エディット・モード P03-5: TIMBRE CC-A タブ・ページの“Cntrl”を○ (Enable) にします。ティンバーごとに設定します。

**note** コントロール・チェンジ・メッセージを送信するときは、グローバル・モード P06: MIDI FILTER ページの“Ctrl Chg”を○ (Enable) にします。

**!** RADIAS-R を TO MODULE 端子に接続すると、リボン・コントローラーは無効になります。また、RADIAS-R を TO MODULE 端子、TO MODULE(2nd) 端子に RADIAS-R または M3-M を接続すると、リボン・コントローラーが無効になるだけでなく、TO MODULE(2nd) 端子に接続した RADIAS-R または M3-M がリボン・コントローラーを操作することによって誤動作を起こす可能性があります。このように接続した場合は、リボン・コントローラーの受信を無効にしてください。

## グローバル・パラメーター

RADIUS システム・バージョン 2.0 では、ミュージック・ワークステーション/サンプラー M3 で使用されているキーボード・アセンブリ 61key/73key/88key と接続して、演奏することが可能となるため、グローバル・パラメーター P04-1: MIDI ページの“MIDI1”～“MIDI5”で選択できる機能に、以下のものが追加されました(※p. 117 P04-1: MIDI ページ “MIDI1”～“MIDI5”)。

### #016 ± (CC#16 ±)

バーチャル・パッチのモジュレーション・ソースとして、キーボード・アセンブリのリボン・コントローラーを使用するときを選択します。

**note** リボン・コントローラーは、手を離れたときにコントロール・チェンジの値が 64 になります。

**▲** キーボード・アセンブリ 73key/88key のリボン・コントローラーを使用するときは、#016 ±を選択してください。#016 ±を選択しないと、期待した効果が得られない場合があります。

### #017 ± (CC#17 ±), #019 ± (CC#19 ±), #020 ± (CC#20 ±), #021 ± (CC#21 ±)

バーチャル・パッチのモジュレーション・ソースとして、M3 のコントロール・サーフェスのスライダーを操作したときなどに送信される MIDI コントロール・チェンジを使用するときを選択します。

**note** #017 ±、#019 ±、#020 ±、#021 ±では、スライダー等を中央の位置にすると(コントロール・チェンジの値が 64)、モジュレーションの効果が 0 になります。

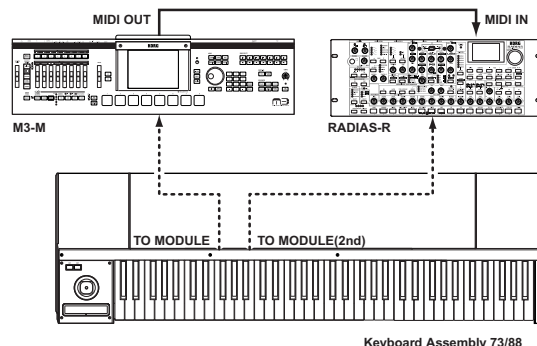
#017、#019、#020、#021 では、スライダー等を 0 の位置にすると(コントロール・チェンジの値が 0)、モジュレーションの効果が 0 になります。

スライダー等のコントローラーを操作して、どのような効果を得たいかによって、どちらかを選択できます。

## 出力音のモニタリング

ミキサー等を使用しないで M3-M と RADIUS-R の出力音を簡易的にモニタリングしたい場合は、RADIUS-R の MAIN OUT 端子を M3-M の AUDIO INPUT 端子へ接続し、M3-M のリア・パネル AUDIO INPUT [MIC/LINE] スイッチを LINE、Global P0: Basic Setup - Audio ページの“Bus Select”を L/R に設定すると、M3-M のヘッドホン端子からモニターすることができます。音量は、M3-M のリア・パネル AUDIO INPUT [LEVEL] ノブと RADIUS-R の [VOLUME] ノブで調節します。

## RADIUS-R と M3-M のテンポを同期させたときの RADIUS-R の発音に関する設定



## RADIUS-R が 2 重に発音しないようにするには

上図のような接続で M3-M と RADIUS-R のテンポを同期させ、TO MODULE(2nd) 端子からのノート・オン等のメッセージと、M3-M の MIDI OUT 端子からの MIDI メッセージによって RADIUS-R が 2 重に発音してしまうことを防ぐ場合は、以下のように設定します。

- RADIUS-R GLOBAL P04-1 MIDI ページ “Clock”: External MIDI または Auto (RADIUS 取扱説明書 ※p. 117)。
- RADIUS-R GLOBAL P04-1 MIDI ページ “Local Ctrl”: Off (RADIUS 取扱説明書 ※p. 116)。

RADIUS-R のローカル・コントロール (“Local Ctrl”) をオフにすることで TO MODULE(2nd) 端子からのノート・オン等のメッセージを受信しないようにします。

## KARMA モジュールのノート・データを RADIUS-R に送信しないようにするには

上図のような接続で M3-M と RADIUS-R のテンポを同期させ、M3-M をプログラム・モードにして KARMA がオンに設定されているプログラム (KARMA によるリズムなドラム・プログラムなど) を使用する場合などに、KARMA モジュールからのノート・データを RADIUS-R に送信しないようにするには、以下のように設定します。

- M3-M Global P1: MIDI-MIDI Routing ページ “Enable KARMA Module to MIDI OUT”: Off。
- RADIUS-R GLOBAL P04-1 MIDI ページ “Local Ctrl”: On (RADIUS 取扱説明書 ※p. 116)。

この場合、M3-M からは鍵盤によるノート情報も送信されないため、RADIUS-R の側の “Local Ctrl” を On にします。

**KORG** 株式会社コルグ

本社：〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

URL: <http://www.korg.co.jp/>